

令和6年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート

子育てセンターみゅうのおか

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 7年 2月 5日 9:30~11:00

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

つながる遊び 広がる思い じっくり楽しむ みんなで楽しむ。

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

興味につながり、遊びのつながり、人とのつながり、地域とのつながりを通して、気持ちの共有や友だち関係の広がりを目指します。そのために、子どもの気付きや興味から、更なる発見や遊びへとつながるように環境を整え、子ども達が主体となり、自己実現や意思決定、協同していけるようなきっかけを作り、援助をしていきます。興味や遊びの派生や連続性を「遊びの展開図」へと可視化し、カンファレンスや話し合いの場で職員間で共有します。その中で、職員の強みや得意を活かし、活動の充実に向けてアイデアを出し合い、教育・保育活動の質の向上に向け協力していきます。そのため、職員は自分の強みを活かすことに加え、自分の興味や課題に向け主体的に学び質の向上に努めていきます。子どもたちの興味や取り組みの様子、エピソードなどについては、園内での共有に加え、保護者に向けて分かりやすい情報発信を心掛け、子どもの学びへの意欲を園と家庭双方で支えていけるように働きかけていきます。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	・グランドデザイン、重点目標共に年度初めの会議の中で職員の理解を図り、指導計画の作成や教育・保育の中に取り入れている。 ・重点目標については、子どもの興味・関心や遊びの広がりを視覚化した「あそびの展開図」をもとに指導計画を作成し、カンファレンスで活用することで日々の教育・保育に落とし込んでいる。 ・3歳未満児については、個々の発達に合わせた生活・遊びが主となっている為、具体的に重点目標からどのように日々の活動に取り入れていけたかが実感されにくい部分もあり、評価に悩む職員もいた。	4	・「遊びの展開図」は子どもの気持ちを追い子どもの姿の移り変わりが可視化されているのがとても良い。職員の思いや取り組みが伝わるのではないかと。保護者に見せる機会があっても良いのではないかと。 ・3歳未満児にとっての、「じっくり楽しむ」とは何かを考え、幼児クラス（3～5歳児）乳児クラス（0～2歳児）の視点で捉えていったらよいのではないかと。各クラスの目指す姿についてを職員が年度の初めに共有しておけると良い。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	・子どもたちの興味・関心の深まりや変化を読み取り、発達や五領域に沿った指導計画（年間計画、月案、週案、日案）を作成し、職員会議等で職員間の共通理解を図って実践している。共通理解を図ることで、職員間の連携も深めることが出来たと感じる。 ・子どもが自由に玩具等を選び、遊びを広げているような環境を意識し設定をしている。	4	・時間が限られている中で、職員会議やカンファレンス等で十分共有、検討が出来ていると思う。 ・遊びの展開図により、遊びの広がりが可視化されるのは分かりやすくて、とても良い。興味のあるもの、ないものが分かるのは気づきがある。広がっていかなかった部分を、より分析していけると良い。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<p>子どもの目線に立ち、思いを受け止めたり丁寧に関わったりすることを意識している。</p> <p>行事やコーナー遊び、「0・1・2歳でいっしょに遊ぼう」等を通して、異年齢の関わりを深めている。</p> <p>絵本の読み聞かせや近隣の学校行事への参加、陶芸体験、みかん狩り体験等を通して地域の様々な人との関わりを持ち、社会的なルールを知ったり、感謝や憧れの気持ちを持ったりしている。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・みかん狩りや陶芸体験など子どもたちが歩いて行ける場所に体験できる環境があってよい。実体験から、子どもたちにとっての地元愛が育つのではと思う。 ・自然の中でいろいろな実体験を経験し、いい所がいっぱいあることを子どもたちは小さいながらもよく分かっていると感じた。
<p>Ⅳ. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や保育参加、懇談会等を通して子どもたちの様子や園の取り組みを知っていただくことが出来ている。また、送迎時には園での子どもたちの様子を丁寧に伝え、成長を喜び合える関係づくりに努めた。 ・ブログや掲示を活動後すぐに公開することで、活動の様子を知っていただくと共に、親子の会話のきっかけ等になるようにしている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・担任のみではなく、みんなで見合っているという部分を保護者に繰り返し伝えていってはどうか。保護者の安心感につながると思う。 ・園の様子を知ってもらう手段は多岐に渡って行っている。（保護者とのコミュニケーション、ブログ等）保護者の受け取り方は様々であり、多少乖離があっても致し方ない。 ・保護者とのコミュニケーションスキルについては、園内研修等でやっていったらよいのではと思う。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・親子ひろばのイベントや講座の実施をおたよりやチラシ、ブログ等で発信することで多くの方に利用していただくことが出来ている。地域の親子と園の子どもたちが一緒に遊ぶ機会が増え、交流にも繋がっている。利用のリピーターも増え、園との信頼関係が出来てきたと感じる。 ・講座の中では看護師や調理員等が話し、専門的な相談にもお答えをしている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・親子ひろばの担当職員と話した時に、今年度の活動がとても充実していると感じた。職員の表情も優しく、来所しているお母さんたちもリラックスしており楽しんで活動しているのが伝わった。 ・玄関に飾られている親子ひろばの親子での製作、「手作りカレンダー」が大変かわいらしく、家でも活用出来そうな物であった。 ・親子ひろばを利用する方がサポートされる体制が整っており「子どもを生んでよかったな」と思うのではないかなと思う。
<p>Ⅵ. スタッフにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・園内では、職員の得意なことを視覚化することでそれぞれの得意なことを教育・保育の中で活かすと共に、職員間で共有することでスキルの獲得や自信にも繋がっている。 ・職員が学びたい外部の研修に参加することが出来るよう、研修案内をファイリングし事務所に置いたことで自ら研修へ参加した職員もいた。引き続き全体にも自ら学ぶ雰囲気広がるよう努めていきたい。 ・職員の専門性の向上については、日々の業務をこなす中で、自己研鑽に向けた意識には個人差が感じられる部分もあるため今後に向けた課題としたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が学ぼうとする風土は整っており、日々の小さな学びが子どもたちに還元されている。 ・学びの時間の捻出は、職員が全員参加できる園内研修の機会を作り出し、学びの機会を増やしていけるとよいのではと感じる。 ・学びの意欲があってもその方法が分からない職員もいるのではないかな。その職員をどう救って行くか（自己分析・時間・方法）を考えて行くことよいのではないかな。 ・自尊感情は感情の底となるもの。いいことも、そうではないことも認めてあげることが大切である。職員同士気持ちを共感し合いどうしていくべきかをより具体的に一緒に考えていけるとよいと思う。 ・今後に期待しての3評価。自信を持って「私たち、やっています」と言えるようになると良い。